



市政記者クラブ加盟社 各位

感染性胃腸炎の集団発生について

次の施設において、「感染性胃腸炎」の集団発生事例（1件）がありましたのでお知らせします。

1 盛岡市内の教育・保育施設（利用者・職員 50名以上）

(1) 患者の状況等

ア 3月31日（金）に施設から、複数の利用者及び職員が嘔吐、下痢等の症状を呈している旨の報告。

イ 保健所が調査を実施し、3月21日（火）から4月1日（土）までに14名（利用者13名、職員1名）に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。

ウ 有症者は回復または回復傾向。

(2) 原因究明の調査等

ア 利用者1名が市内医療機関を受診。同医療機関にて実施した検便検査の結果ノロウイルスを検出。

イ 保健所において感染経路等を調査したところ、体調不良者の施設利用、排泄物・嘔吐物処理の過程に一部不十分な点があったと推察されたことから、施設に対し利用者の健康観察の再徹底と排泄物・嘔吐物処理の手順の再確認等二次感染予防対策について指導。

ウ 給食を原因とする食中毒の可能性は低いと判断。

2 保健所からのお願い

感染性胃腸炎は、例年、秋から春の初め頃まで流行します。

盛岡市内における感染性胃腸炎の定点医療機関当たりの報告数は、2023年第12週（3月20日から3月26日まで）に6.86人となり、前週（7.71人）よりも減少しています。減少傾向にありますが、社会福祉施設はもちろん、各家庭においても、調理や食事の前、トイレやオムツ交換の後の手洗い等を心がけ、感染予防に引き続き注意しましょう。

(1) ノロウイルスとは

ノロウイルスとは、嘔気・嘔吐と下痢を主症状とする急性胃腸炎の原因のウイルスのひとつです。ウイルスが体に取り込まれてから半日から2日の潜伏期間を経て、嘔吐が始まります。その後、水様性下痢が出現し、2日ほどの経過で回復に向かいます。症状がなくなっても2～3週間程度は便中にウイルスが排出されるといわれています。

(2) 予防方法

- ・ トイレやオムツ交換の後、調理前、食事前には石けんと流水で十分な手洗いを行う。
- ・ 下痢や嘔吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業を自粛する。
- ・ 調理する場合、加熱が必要な食品は85～90度・90秒以上で十分加熱する。
- ・ 嘔吐した場合は、部屋の換気を十分に行いながら、マスクや使い捨て手袋を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した器具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ・ 嘔吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

(3) 感染性胃腸炎の集団発生状況

区分	盛岡市				岩手県（盛岡市含む。）			
	ノロウイルス	ロタウイルス	その他（サポウイルス等）	計	ノロウイルス	ロタウイルス	その他（サポウイルス等）	計
令和5年4月～現在	1	0	0	1	0	0	0	0
昨年同期（令和4年度）	0	0	0	0	0	0	0	0